

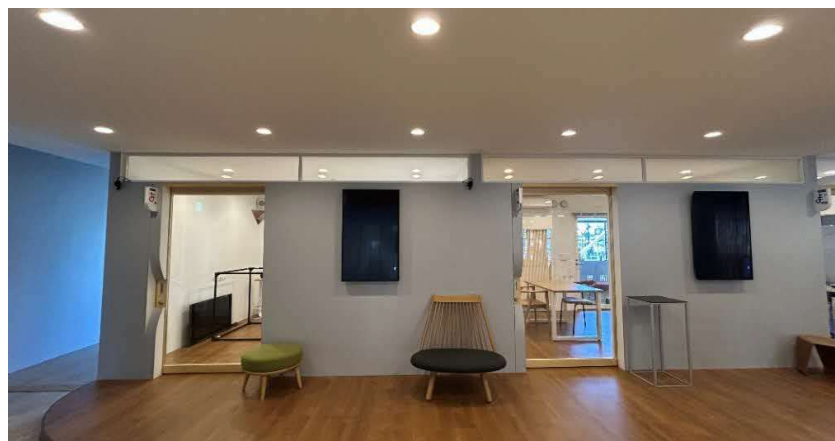
令和7年5月23日  
国立大学法人千葉大学  
墨田区

## あつまレ HUB・LAB・SUMIDA が千葉大学墨田サテライトキャンパスに OPEN ～地域課題解決を目指した、公民学連携の研究開発拠点～

国立大学法人千葉大学は5月23日（金）に、地域課題解決を目指した公民学連携の研究開発拠点「あつまレ HUB・LAB・SUMIDA」を墨田サテライトキャンパスに開設しました。あそんで・つながって・まなべるレクリエーション施設の頭文字をとった「あつまレ」は、大学が HUB（ハブ）となり、墨田区・地域住民・民間企業・研究者の連携を強化し、地域の課題解決を目指します。

この施設は、包括連携協定を締結している墨田区と協力して2つの「場」を作ります。1つ目は、最新の研究技術を社会の問題解決のために具現化する研究開発の場です(2 ページ)。2つ目は、地域住民が大学の研究や企業の取り組みを見て触れて体験でき、様々な健康プログラムが受けられる多世代交流の場です（3 ページ）。

あつまレ HUB・LAB・SUMIDA における、公民学連携での地域課題解決を目指す取り組みへの参加パートナーを随時募集しています。



写真左上：施設全体、右上：講演・レクリエーションスペース、左下：コントロールルーム、右下：居室スペース

<研究に関するお問い合わせ>

千葉大学予防医学センター 鈴木規道

TEL: 043-290-3896 E-mail: suzu-nori@chiba-u.jp

<広報に関するお問い合わせ>

墨田区企画経営室行政経営担当

TEL: 03-5608-6230 FAX: 03-5608-6407 E-mail: GYOUSEI@city.sumida.lg.jp



## BeWell System Platform

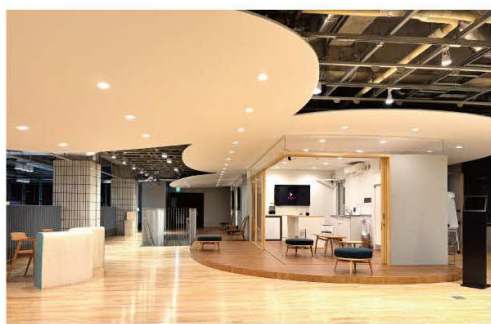
公民学連携の研究開発拠点リビングラボ墨田を活用した  
Society 5.0 の実現に向けた総合知研究

### 健康な住まいの環境最適化や 認知症の早期発見を目指した BeWell System Platform

住まいの環境データやヒトの日常生活活動データを持続的に測定できるモデル構築に挑戦します。予防医学や工学、生体医工学、看護学、情報学、デザイン学など領域横断的な専門家が連携し、心身の健康や軽度認知症などの課題解決に取り組みます。生体データを元に住環境の最適化を目指します。



## 01



あつまレ HUB・LAB・SUMIDA は、住まいの環境や日常活動を測定、推定、コントロールできる研究開発、教育、通いの場。大学の研究や企業の取り組みなどを見て体験しながら、環境や生体、活動のデータが測定できる学びと集いの場。

## 02



非接触やウェアラブル装置で得られた感情や身体の動き、日常生活行動などの情報をビッグデータ化。予防医学や工学、生体医工学、看護学、情報学、デザイン学のデータに基づいた変数から AI 解析を行い、潜在的な兆候を探究。

## 03



心的状態に連動した住まい環境の自動最適化  
快適性や集中力の向上、熱中症やヒートショックの予防策

軽度認知症 (MCI) を早期発見  
生活習慣や地域交流などの改善策

ヒトの生体情報や住まいの環境情報を  
測定して、推定・分析して、フィードバックすると  
例えば、こんなことがわかります。



地域住民が大学の研究や企業の取り組みを見て触れて体験でき、様々な健康プログラムが受けられる多世代交流の場



## 千葉大学、墨田区、民間企業と 街や人々が様々な健康プログラムを 実施する多世代交流拠点

あつまレ HUB・LAB・SUMIDA は全ての世代の人が、大学の研究や企業の取り組みを見て触れて体験できます。子育て世代のサポートや成人期の生涯学習、高齢者の居場所となる多世代交流の場を目指します。



ライフコースアプローチ  
それぞれの世代が抱える課題の解決に  
寄り添う研究や体験型のプログラム



### 大学主導の公民学連携プロジェクト

#### HUB LAB SUMIDA のプログラム

#### 01 地域住民

##### 街や人々の課題解決

大学や企業の研究に触れさせてみたい子育て世代、放課後の遊び場が欲しい子供たち、健康や Well-being をもっと知りたい地域住民、多世代と交流したい、通いの場がもっと欲しい高齢者など、多世代が交流できる体験型の拠点が生まれます。



#### 多世代交流拠点

